

インパクト会計の概要

公認会計士

五十嵐 剛志

1. WHY : インパクト会計の必要性
2. WHAT : インパクト会計の定義・特徴
3. HOW : インパクト会計の方法・導入事例

1. **WHY : インパクト会計の必要性**
2. WHAT : インパクト会計の定義・特徴
3. HOW : インパクト会計の方法・導入事例

背景

- すべての人と地球のために機能する、**より包括的で持続可能な資本主義を構築**する必要がある
- 甚大な環境破壊、所得と富の格差の拡大、先進国でのストレスや鬱などは、価値を創造して分配する現在のシステムがいかに壊れているかを示す例



企業活動が、財務資本や物的資本だけでなく、
**人的資本、社会的資本、自然資本に与えるインパクトを
意思決定の際に考慮できるようにする**必要がある。

投資家からのニーズ

投資家はインパクトの金銭的価値の開示を求めています。

75%

75%の投資家は、
企業が社会や環境に与える
インパクトを報告することが重要
であると回答しています。

これは2022年調査の60%から
増加しています。

75%

75%の投資家は、
企業が社会や環境に与える
インパクトの金銭的価値の開示を
求めています。

これは2022年調査の66%から
増加しています。

81%

81%の投資家は、
企業が社会や環境に与える
**インパクトの金銭的価値を明らかにすれば環境や社会問題とのト
レードオフを経営の意思決定に統
合することに役立つと考えていま
す。**

1. WHY : インパクト会計の必要性
- 2. WHAT : インパクト会計の定義・特徴**
3. HOW : インパクト会計の方法・導入事例

インパクト会計の概要

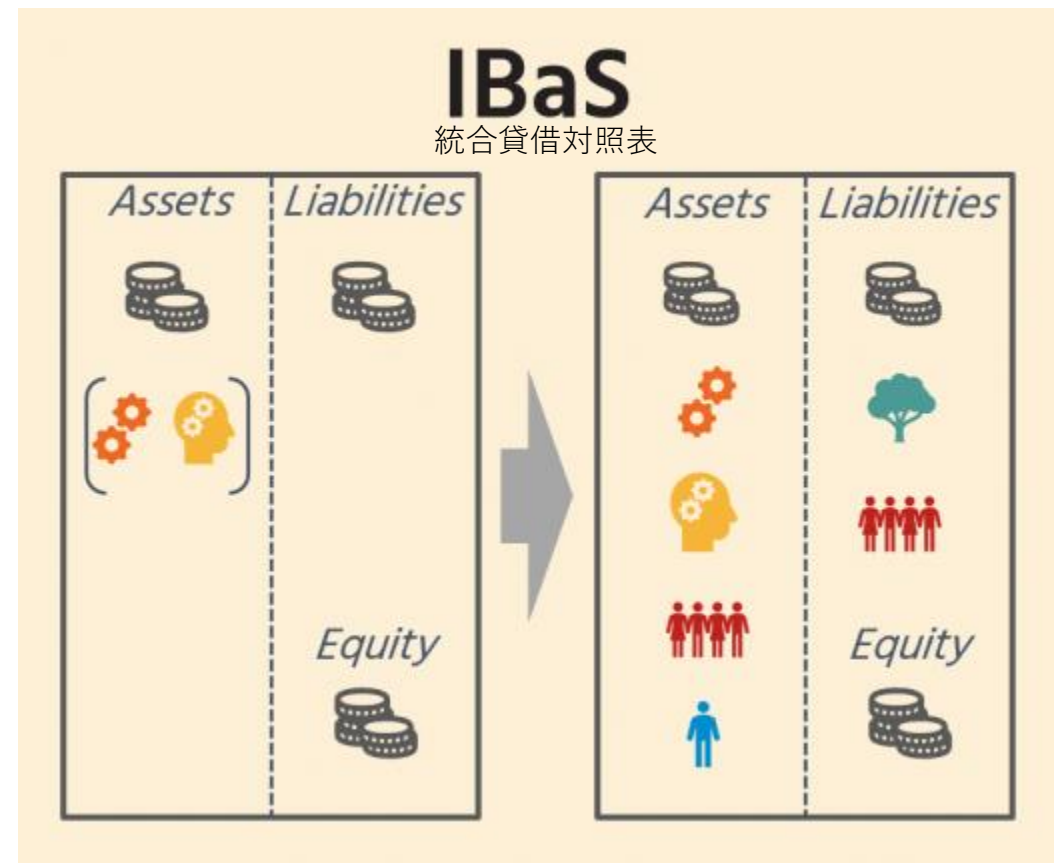
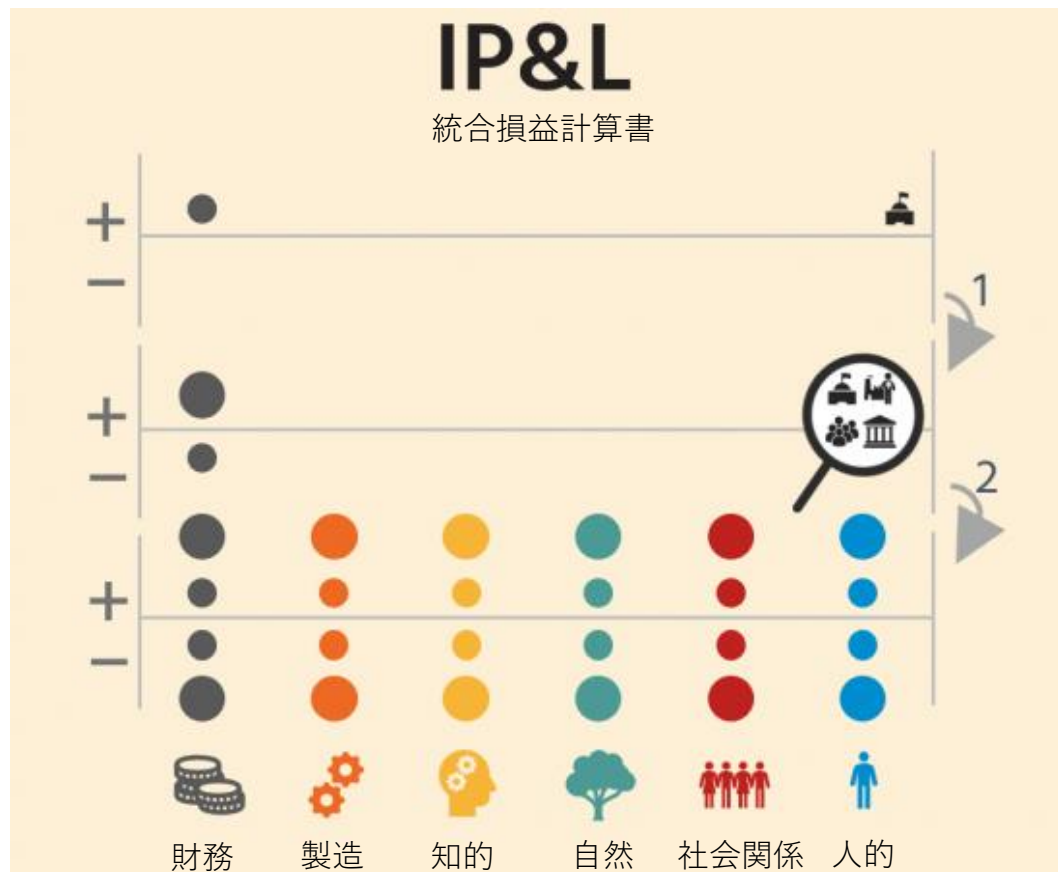
インパクト会計とは？



人々や地球にとって、より良い意思決定を行うため、
組織の社会・環境への影響（インパクト）を貨幣価値評価し、財務諸表に反映するもの

インパクト会計の概要

インパクト会計では、**投資家や経営者の意思決定**に役立たせるため、
企業の**財務、社会、環境のパフォーマンスを反映**した財務諸表の作成を行う。



参考：インパクトステートメントのプロトタイプ

	Company and investors	Employees	Clients	Suppliers	Government, local communities and others	Beneficiaries of nature	Total
Financial	€ 10.000.000	€ 15.000.000	€ -100.000.000	€ 40.000.000	€ 20.000.000		€ -15.000.000
Payments from clients			€ -100.000.000				€ -100.000.000
Payments to suppliers				€ 40.000.000			€ 40.000.000
Employee salaries (and related taxes)		€ 15.000.000			€ 10.000.000		€ 25.000.000
Interest payments	€ 5.000.000						€ 5.000.000
Income tax paid					€ 10.000.000		€ 10.000.000
Net profit/loss	€ 20.000.000						€ 20.000.000
Cost of capital	€ -15.000.000						€ -15.000.000
Manufactured			€ 150.000.000	€ -35.000.000			€ 115.000.000
Client value of products and services			€ 150.000.000				€ 150.000.000
Value of the goods delivered by suppliers				€ -35.000.000			€ -35.000.000
Intellectual	€ 2.000.000						€ 2.000.000
Development of immaterial assets and technology	€ 2.000.000						€ 2.000.000
Human	€ 2.000.000	€ 3.500.000		€ 1.000.000	€ 2.500.000		€ 9.000.000
Creation of human capital	€ 2.000.000	€ 5.000.000		€ 1.000.000	€ 3.000.000		€ 11.000.000
Well-being effects of employment		€ 4.000.000			€ 2.000.000		€ 6.000.000
Workplace health and safety incidents		€ -500.000			€ -500.000		€ -1.000.000
Opportunity cost of labour		€ -5.000.000			€ -2.000.000		€ -7.000.000
Social	€ 1.000.000				€ -4.500.000		€ -3.500.000
Change in brand value and customer loyalty	€ 1.000.000						€ 1.000.000
Child labour (in the value chain)					€ -1.000.000		€ -1.000.000
Forced labour (in the value chain)					€ -500.000		€ -500.000
Underpayment (in the value chain)					€ -3.000.000		€ -3.000.000
Natural						€ -6.400.000	€ -6.400.000
Use of scarce materials						€ -500.000	€ -500.000
Use of scarce water						€ -400.000	€ -400.000
Water pollution						€ -1.000.000	€ -1.000.000
Fossil fuel depletion						€ -400.000	€ -400.000
Contribution to climate change						€ -2.500.000	€ -2.500.000
Land use and transformation						€ -800.000	€ -800.000
Air pollution						€ -1.000.000	€ -1.000.000
Total	15.000.000	18.500.000	50.000.000	6.000.000	18.000.000	-6.400.000	116.100.000

インパクト会計の特徴

インパクト会計は、**インパクトを貨幣価値換算する**ため、以下の3つの特徴がある。

直感的に理解可能



社会や環境へのインパクトを、経営者や投資家が直感的に理解できる比較可能な単位（金額）に変換する。

比較及び集計可能



意思決定に必要な重要な詳細を不明瞭にすることなく、意味のある集計と比較が可能。

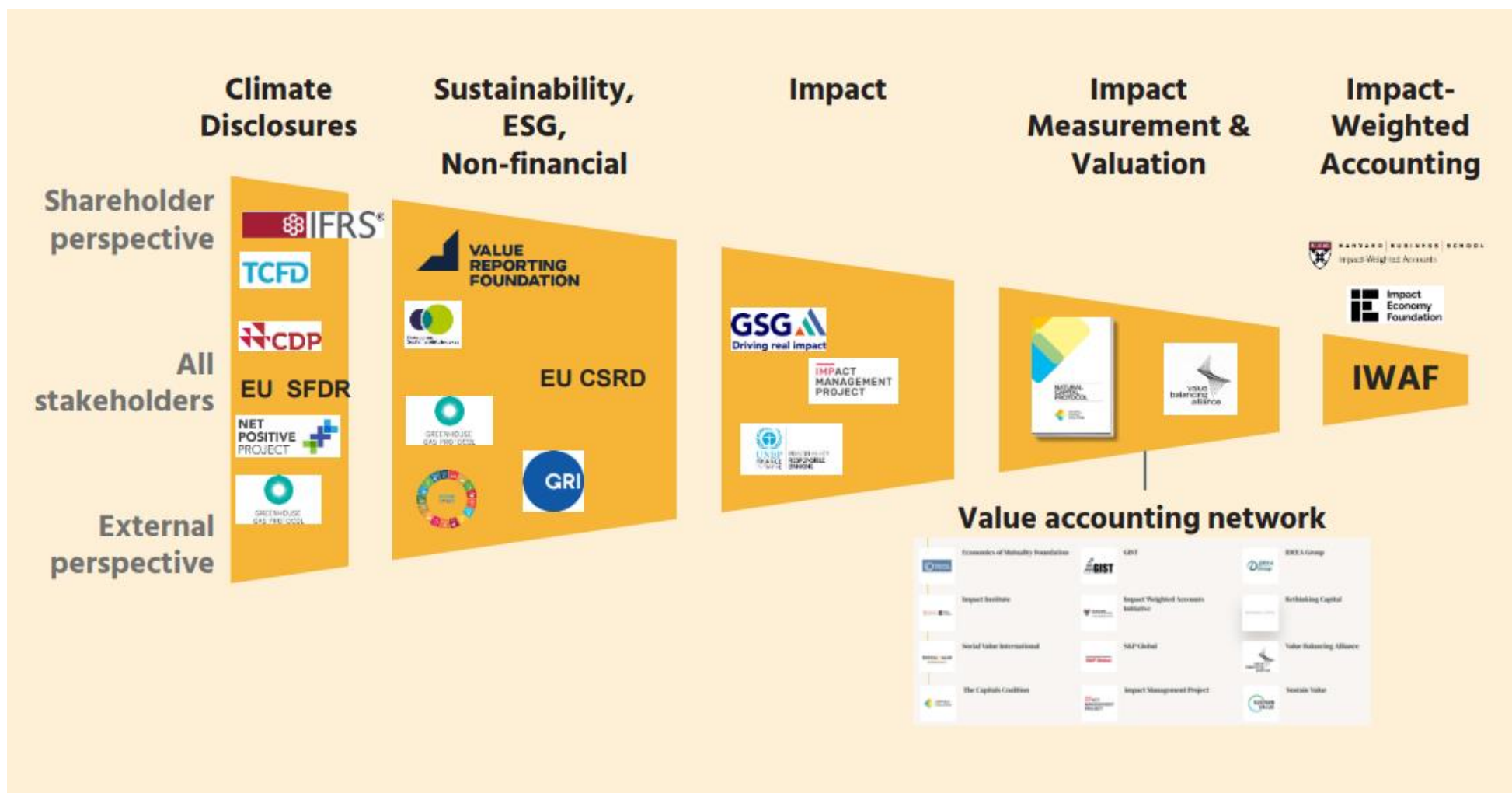
既存の評価ツールの使用が可能



財務とインパクトが同じ形式で表示されるため、既存の財務・ビジネス分析ツールを使って企業のパフォーマンスを評価することが可能。

他の非財務情報開示主体との関係

インパクト会計は、さまざまな**サステナビリティ・インパクトの測定、報告等の最前線**にある



インパクト会計の活用方法



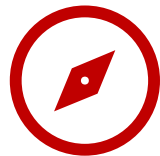
意思決定

経営者や投資家の**意思決定**に役立たせることができる



企業報告

より効果的に重要なステークホルダーとの**コミュニケーション**を行うことができる



戦略立案

成長機会を特定することができる

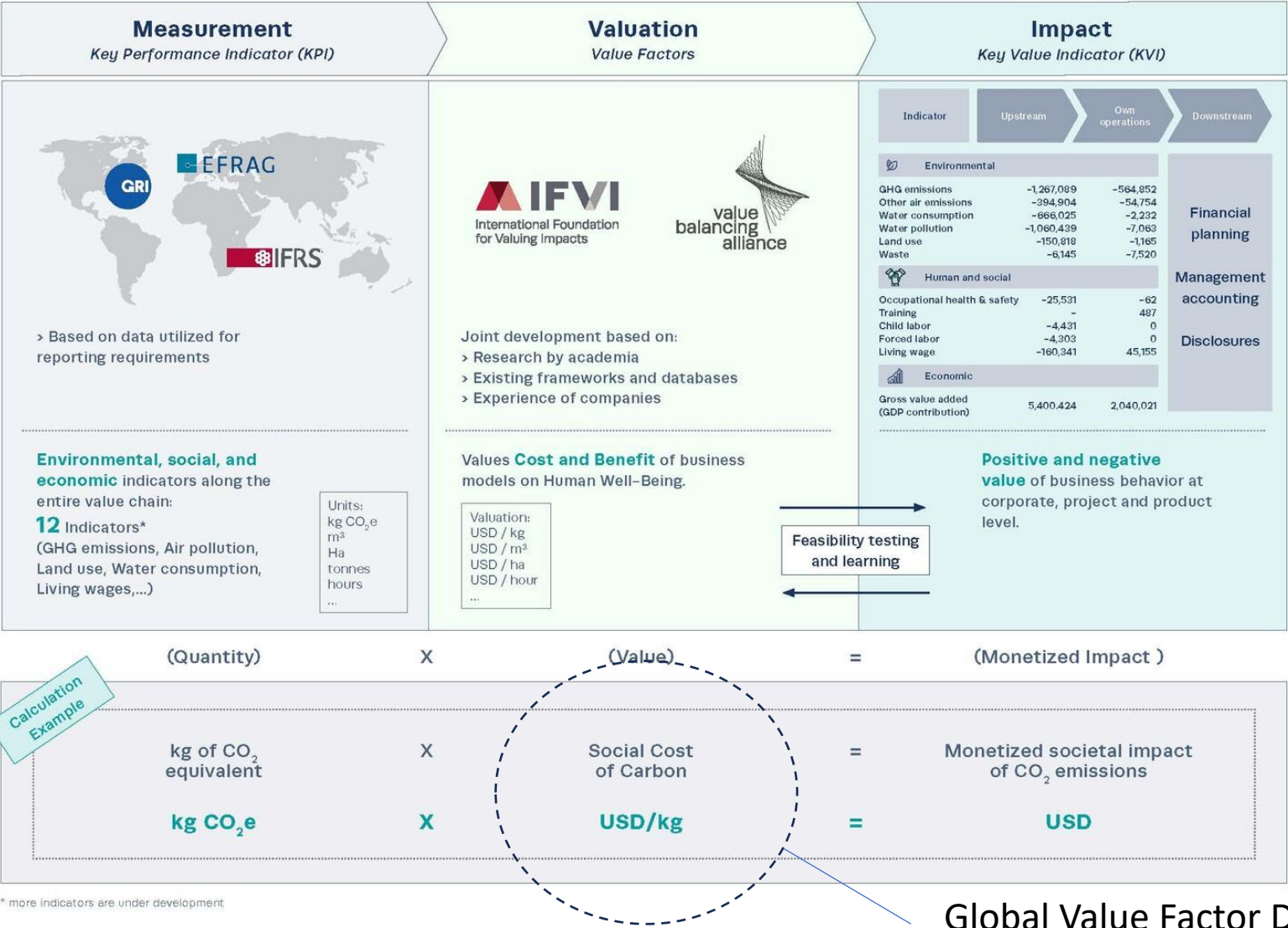


マネジメント・ モニタリング

インパクトに基づきマネジメント、モニタリングすることで
従業員等を動機づけることができる

1. WHY : インパクト会計の必要性
2. WHAT : インパクト会計の定義・特徴
- 3. HOW : インパクト会計の方法・導入事例**

インパクト会計の概要



Global Value Factor DB
(貨幣価値評価係数のデータベース)

インパクト会計方法論の構成

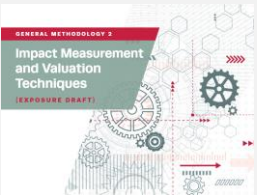
方法論の構成

全般的方法論

概念フレームワーク



インパクト測定と貨幣価値換算方法



標準化されたインパクトパスウェイ

トピック別方法論

適正賃金



水消費



TBD

...

温室効果ガス



廃棄物と循環

TBD

...

業種別方法論

製品インパクト
全般的
フレームワーク

TBD

TBD

...

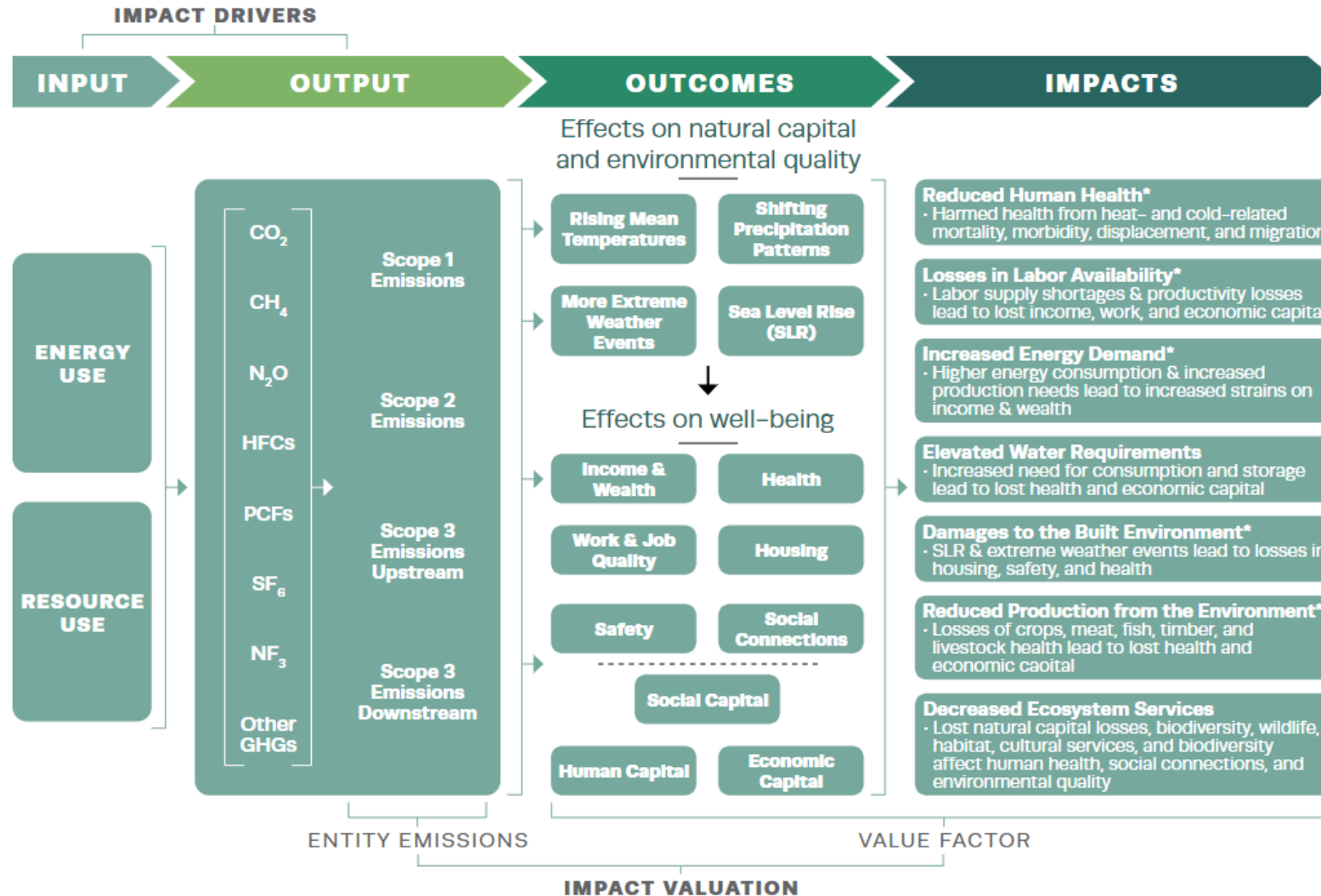
TBD

TBD

TBD

...

(例) 環境インパクト：温室効果ガス（GHG）排出



(出典：IFVI “GHG Emissions Topic Methodology”)

導入事例

世界中でインパクト会計のパイロット導入が進んでいる。

CONSULTING



PUBLIC SECTOR



COMPANIES



INVESTORS



These organizations have piloted impact accounting through either VBA and/or Harvard's Impact-Weighted Accounts Project.

導入事例

我が国でもエーザイ、積水化学工業、ヤマハ発動機、KDDI、オムロン、日清食品HD、五常・アンド・カンパニー、Ubieなどが先進的にインパクト会計の導入を行っている。



非財務資本の見える化：DEC監価提供の製品インパクト会計

当社は2014年から2018年の5年間で14種類のDEC監価を開発法上2525万5千円で開発・提供しました。開発・提供によって創出した社会的インパクトについて、種・フーリーバード(2022)製品インパクト加重会計(BWA)方式で算出した結果、約1万5千に達する結果が得られました(図表1)。この数値は実際に患者様および関係機関と対話できる方が取り戻せる労働時間(最低賃金を基準に、対

患者様および平均寿命を算出)が、期間であるヘスケア23にも加算は試算されました。ライフタイムの社会的インパクト7万5千を平均寿命(Benefit Cohort 1、2)では43年、Benefit Cohort 3では33年)で割ることで、当社の製品が平均寿命の社会的インパクトは、年間約1,600時間に相当しました。

図表1 DEC監価提供の社会的インパクト(2014年から2018年)

製品	社会的インパクト	年間平均寿命(年)
Benefit Cohort 1	7,500,000	43.0
Benefit Cohort 2	5,072,368	33.0
Benefit Cohort 3	1,600,000	23.0
合計	13,172,368	33.0

注：1. 製品の価値は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2022)を算出する。2022年現在、平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。2. Benefit Cohort 1は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2022)を算出する。2022年現在、平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。3. Benefit Cohort 2は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2022)を算出する。2022年現在、平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。4. Benefit Cohort 3は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2022)を算出する。2022年現在、平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。

DEC監価提供による社会的インパクトの社会価値

当社は、LPの提供に際し、WHOなどの国際機関に、DEC監価を製品価値として提供します。世界最大の製薬企業であるインテルの提供により、今後、さらに1,200万人に貢献することを目指し、2014年から2018年間で約1,900万人に貢献し、2014年から2018年の間の社会的インパクトを算出するに試みしました。

図表2 DEC監価提供の社会的インパクト(2025年度、2030年度)

製品	2025年度	2030年度
Benefit Cohort 1	8,100,000	8,100,000
Benefit Cohort 2	5,072,368	5,072,368
Benefit Cohort 3	1,600,000	1,600,000
合計	14,772,368	14,772,368

注：1. 製品の価値は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2025年度、2030年度)を算出する。2025年度、2030年度の平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。2. Benefit Cohort 1は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2025年度、2030年度)を算出する。2025年度、2030年度の平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。3. Benefit Cohort 2は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2025年度、2030年度)を算出する。2025年度、2030年度の平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。4. Benefit Cohort 3は、患者様の健康増進に寄与する社会的インパクト(2025年度、2030年度)を算出する。2025年度、2030年度の平均寿命は75.5歳(男性)と76.5歳(女性)である。

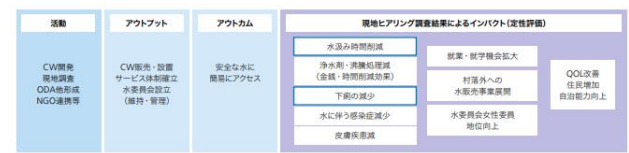
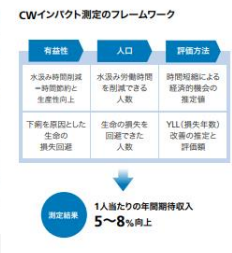


事例2：クリーンウォーターシステムにおけるインパクト加重会計

OMDOが取り組むクリーンウォーターシステム(以下、CW)は、2023年4月時点でアフリカを中心に50基が設置されています。初期に設置したCWは既に17年にわたりそこに住む人々の生活を支えています。CW事業は「水が変われば暮らしが変わる」をスローガンに、安全な水へのアクセスが地域の生活に大きなインパクトを与えることを念頭に活動を展開しています。これまでの活動では、設置後の生活改善を定性的に情報収集していたものの、ステークホルダーの皆さまに、本事業の社会的意義を定量的な観点からもご理解いただくため、インパクト加重会計に取り組みました。

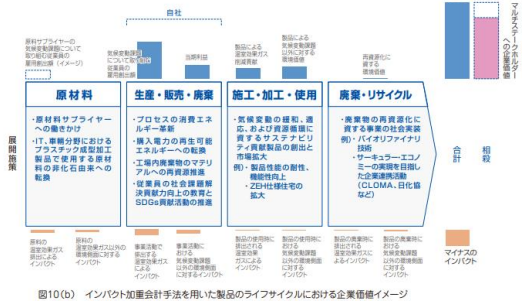
インパクト加重会計は評価基準や算出方法などまだまだ課題は多いものの、活動をご理解いただくために有用であると考えとともに、インパクトの観点で定量的に点検することにより、見えにくかった課題の発見にもつながります。また、2次インパクト、3次インパクトと社会課題解決の取組みを並けていくことが可能です。事業を通じて社会課題を解決し続けることがOMDO創設のコアであり、今後も新しい取組みにチャレンジしていきます。

▶ インパクト評価の詳細は当社Webサイト「クリーンウォーターシステムの展開」をご覧ください。



(出典：ヤマハ発動機(2023)統合報告書2023)

(出典：エーザイ(2023)価値創造レポート)



(出典：積水化学工業(2023)TCFD/TNFD Report)



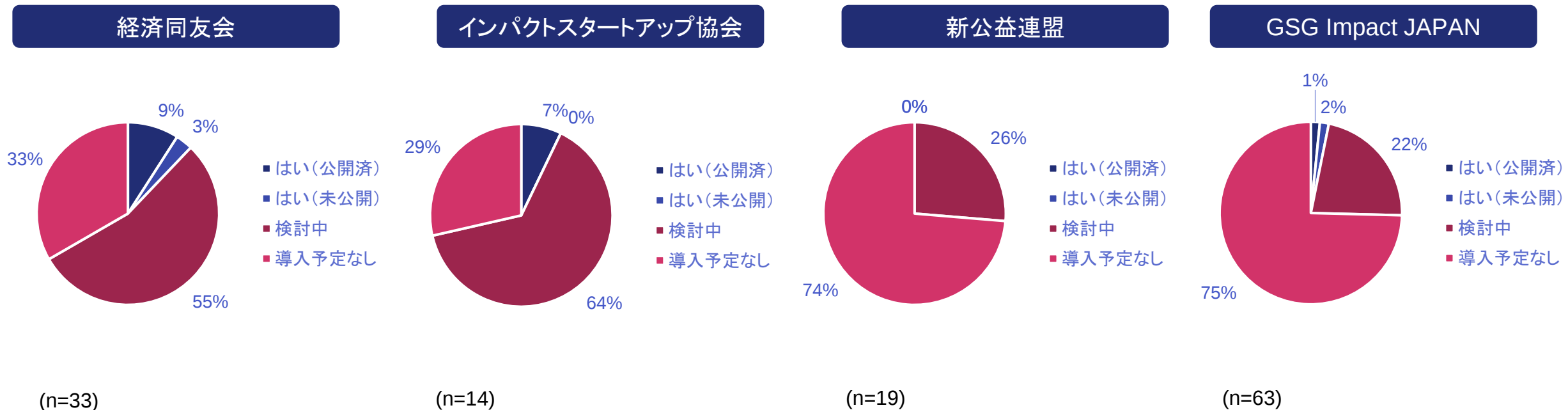
インパクト加重会計 (2024年3月期) (百万円) (注3)	
[A] 売上収益	1,264,739
[B] EBITDA	309,368
[C] IoT絡みの社会的インパクト	502,266
インパクト加重会計の総利益 (= [B] + [C])	811,634
売上収益に対するインパクトの比率 (= [C] / [A])	39.7%
EBITDAに対するインパクトの比率 (= [C] / [B])	162.4%

(出典：KDDI(2024)ニュースリリース：企業活動の社会的インパクトを金額換算する「インパクト加重会計」を実施)

導入検討状況

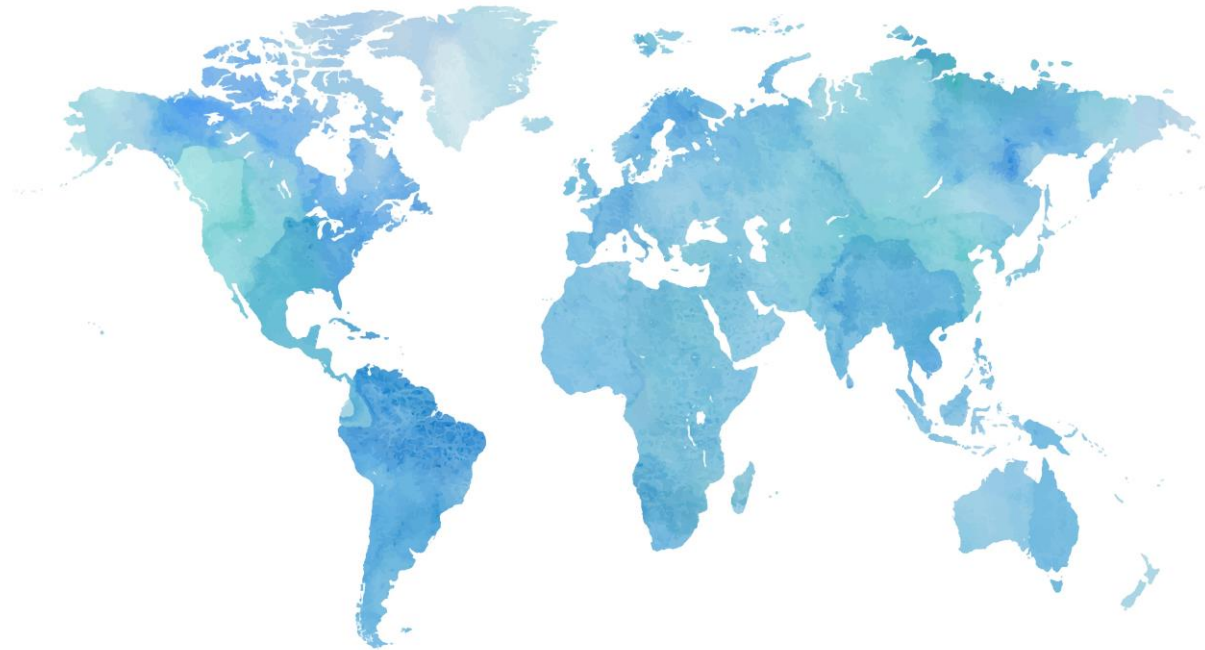
経済同友会においては「はい（公開済）(9%)」「はい（未公開）(3%)」「検討中(55%)」、インパクトスタートアップ協会においては「はい（公開済）(7%)」「検討中(64%)」、新公益連盟においては、「検討中(26%)」、GSG Impact JAPANにおいては、「はい（公開済）(1%)」「はい（未公開）(2%)」「検討中(22%)」
大企業での導入(12%)が比較的進んでおり、次いでインパクトスタートアップ(7%)という結果となった。
日本全国で少なくとも53社がインパクト会計導入済みまたは導入検討中であることが分かった。

Q.インパクト会計を導入していますか？



さいごに

インパクトエコノミー形成のために**インパクト会計は不可欠**である。
我が国企業はインパクト会計を先進的に導入しており、インパクト会計への関心度も高い。
インパクト会計の**導入事例を増加**させるとともに、インパクト会計**基準開発に貢献**することで、
我が国が**リーダーシップを発揮**していくことができる。



主要参考文献

Serafeim, G., Zochowski. R., and Downing, J., 2019. Impact Weighted Financial Accounts: The Missing Piece for an Impact Economy. *Harvard Business School*.

Serafeim, G., Trinh, K., 2019. A Framework for Product Impact-Weighted Accounts. *Harvard Business School Working Paper 20-076*.

Freiberg, D., Panella, K., Serafeim, G., Zochowski. R., 2021. Accounting for Organizational Employment Impact. *Harvard Business School Working Paper 21-050*.

Freiberg, D., Park, D., Serafeim, G., Zochowski. R., 2021. Corporate Environmental Impact: Measurement, Data and Information. *Harvard Business School Working Paper 20-098*

Impact Economy Foundation, 2022. *Summary to Impact-weighted Accounts Framework*

IFVI&VBA, 2023. “*Conceptual framework of Impact Accounting*”

IFVI & VBA 2024. “*GHG Emissions Topic Methodology*”